

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究 (A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19203005

研究課題名（和文）刑事法学と心理学-刑事裁判心理学の構築に向けて-

研究課題名（英文）Criminal Law and Psychology, toward the Criminal Forensic Psychology

研究代表者

白取 祐司 (SHIRATORI YUJI)

北海道大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：10171050

研究代表者の専門分野：刑事訴訟法

科研費の分科・細目：法学・刑事法学

キーワード：刑事法学、基礎法学、教育系心理学、社会系心理学、実験系心理学

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、司法改革によって大きく様変わりする刑事司法の諸課題について、心理学の成果を取り入れた科学的、実証的手法を用いて解明を試みるとともに、刑事手続の運用と刑事司法の制度設計のあり方につき提言を行おうとするものである。

(2) そのために、研究代表者および分担者を (a) 手続的公正の心理学班、(b) 裁判員制度分析班、(c) 証言心理学班に分け、各々の課題を、司法の場におけるコミュニケーション実験、刑事司法に対する意識調査、児童に対する場面実験と面接法などの調査・実験などによって追求し、再度全体を統合して刑事司法制度・運用について具体的な提言を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) 2009 年 3 月から 4 月にかけて、国民の厳罰意識と犯罪と司法に対する態度について、一般市民及び弁護士を対象にした調査票による実態調査（全国ランダムサンプル調査）「人々の裁判員裁判と刑事司法への態度」を実施し、集約・分析作業を進めてきた。その分析結果は、北大法学部の紀要及び学術雑誌『法社会学研究』で公開するほか、2009 年及び 2010 年の法社会学会で報告した。

(2) フランスの刑事心理鑑定の専門家を招いて、2010 年 3 月にシンポジウム「刑事司法と心理鑑定——フランスの現状と日本への示唆」を行った。研究代表者及び研究分担者 4 名がパネリストとなって、裁判における心理学鑑定の有用性とそのための条件について具体的検討を行い日本における課題を明ら

かにした。このシンポジウムに先立って、研究代表者の白取は、フランスの刑事司法における心理鑑定に関する実地調査を行ったほか、専門家に対して面接調査も行っている。以上の成果について、法律雑誌で公開予定である。

(3) 証言心理に関する研究分野では、とりわけ適切・適正な子どもの証言採取の手法の研究として、面接法のリサーチデザインを行うため質問項目の検討を行うほか、場面実験や聞き取り調査によるデータ分析を行った。これらの成果を生かして、研究分担者を中心に司法面接法のセミナーを数回開催してきた。

(4) 本共同研究は、3つの班で並行して研究を進めるため、研究成果の共有化の場を設ける必要がある。そのため、毎年度末、2日間かけて研究集会を開催し、それぞれの研究結果を発表しあい、成果の共有と研究の方向性について論究してきた。この研究集会には、毎回、刑事裁判心理学の最先端の研究・実践に携わっている実務家等を招聘して共同研究を行っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 各班において、計画通りに研究が進んでおり、具体的には、調査票による全国実態調査（ランダムサンプル調査）、刑事裁判における心理鑑定の役割の海外調査と国際シンポジウムの開催など、一部計画を修正したりもしたが、所期の成果をあげていると思われる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 基本的に、これまでどおり研究計画に従って、各班による研究遂行を進め今年度は最後の年なので研究成果のまとめを行う。

(2) 裁判員制度分析の過程で、とりわけ情状鑑定との関係で心理鑑定の重要性が認識され、前年度はこの方面で実績のあるフランス刑事司法の調査と専門家の招聘を行ったが、今後さらにフランスの制度と実態の調査を進める予定である。

(3) 今年度は本研究の最終年度にあたるため、早めに研究集会を開催し、成果のまとめと公刊に向けて準備を行う。できれば年度内の成果を公表することにしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 20 件)

① 松村良之、「人々の裁判員裁判と刑事司法への態度---その評価を中心にして---」、法社会学、査読あり、72 号 (2010 年)、70-87 頁

② 川崎英明、「犯罪被害者と刑事手続」、犯罪と刑罰、査読無し、19 号 (2009 年)、15-32 頁

③ 仲真紀子、「裁判員制度と心理学-被害者に関する情報の影響について」、刑法雑誌、査読あり、48 巻 3 号 (2009 年)、85-100 頁

〔学会発表〕(計 16 件)

① 松村良之、「『人々の裁判員裁判と刑事司法への態度---全国成人質問調査票の結果を踏まえて (1)』ミニシンポジウム：人々の裁判員裁判への態度とその受容」、法社会学会、2009 年 5 月 9 日、明治大学 (東京)

〔図書〕(計 20 件)

① 岡田悦典・藤田政博・仲真紀子編、ぎょうせい、『裁判員裁判と法心理学』、2009 年、21-32 頁、44-57 頁、120-130 頁、140-148 頁